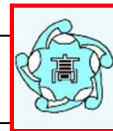


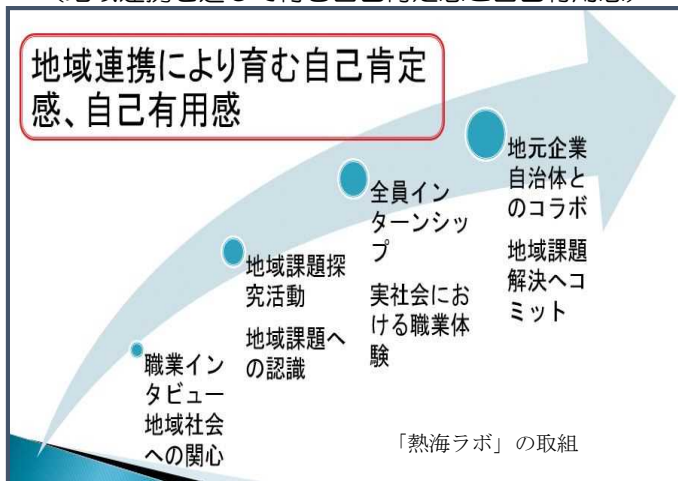
学力進展



<p><1 テーマ> 同僚性の高い教員集団の強みを活かし、生徒が自己肯定感を高め、自律的に学びに向かう姿勢を育む。</p> <p><2 取組方法> 義務教育段階の学習内容の定着が不十分で、適切な人間関係を構築することが苦手なため、自己肯定感が乏しく、将来に対する具体的なビジョンを見いだせない生徒が本校では多く在籍する。こうした生徒に対し、自己肯定感・有用感を高め、基礎学力を向上する取組を通し、第一志望の進路実現を達成するよう支援する。</p>	<p><3 成果指標と実績></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>成果指標</th> <th>初期値</th> <th>目標値</th> <th>実績 (評価)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①授業への取組 2年</td> <td>33%</td> <td>35%</td> <td>— ()</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>22.5%</td> <td>30%</td> <td>— ()</td> </tr> <tr> <td>①平日学習時間 2年</td> <td>0.37</td> <td>0.5</td> <td>— ()</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>0.53</td> <td>0.7</td> <td>— ()</td> </tr> <tr> <td>①休日学習時間 2年</td> <td>0.31</td> <td>0.6</td> <td>— ()</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>0.53</td> <td>0.8</td> <td>— ()</td> </tr> <tr> <td>③授業で力がついた実感 2年</td> <td>3.3%</td> <td>10%</td> <td>— ()</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>8.8%</td> <td>15%</td> <td>— ()</td> </tr> <tr> <td>①授業の理解度</td> <td>6.6% 8.8%</td> <td>15% 25%</td> <td>— ()</td> </tr> <tr> <td>②外部連携等</td> <td>125人</td> <td>211人</td> <td>— ()</td> </tr> <tr> <td>②学力向上補習等</td> <td>33人</td> <td>40人</td> <td>— ()</td> </tr> <tr> <td>③第一志望</td> <td>53人</td> <td>70人</td> <td>— ()</td> </tr> <tr> <td>1日当たり欠席</td> <td>12.6人</td> <td>9人</td> <td>— ()</td> </tr> <tr> <td>2,3年部活加入率</td> <td>78%</td> <td>80%</td> <td>— ()</td> </tr> <tr> <td>学習アプリ取組</td> <td>100p</td> <td>150p</td> <td>— ()</td> </tr> <tr> <td>自己肯定感</td> <td>10.4% 7.1%</td> <td>20% 20%</td> <td>— ()</td> </tr> <tr> <td>業者テスト</td> <td>D2+/D2+</td> <td>D1-/D1-</td> <td>— ()</td> </tr> </tbody> </table>	成果指標	初期値	目標値	実績 (評価)	①授業への取組 2年	33%	35%	— ()	1年	22.5%	30%	— ()	①平日学習時間 2年	0.37	0.5	— ()	1年	0.53	0.7	— ()	①休日学習時間 2年	0.31	0.6	— ()	1年	0.53	0.8	— ()	③授業で力がついた実感 2年	3.3%	10%	— ()	1年	8.8%	15%	— ()	①授業の理解度	6.6% 8.8%	15% 25%	— ()	②外部連携等	125人	211人	— ()	②学力向上補習等	33人	40人	— ()	③第一志望	53人	70人	— ()	1日当たり欠席	12.6人	9人	— ()	2,3年部活加入率	78%	80%	— ()	学習アプリ取組	100p	150p	— ()	自己肯定感	10.4% 7.1%	20% 20%	— ()	業者テスト	D2+/D2+	D1-/D1-	— ()
成果指標	初期値	目標値	実績 (評価)																																																																						
①授業への取組 2年	33%	35%	— ()																																																																						
1年	22.5%	30%	— ()																																																																						
①平日学習時間 2年	0.37	0.5	— ()																																																																						
1年	0.53	0.7	— ()																																																																						
①休日学習時間 2年	0.31	0.6	— ()																																																																						
1年	0.53	0.8	— ()																																																																						
③授業で力がついた実感 2年	3.3%	10%	— ()																																																																						
1年	8.8%	15%	— ()																																																																						
①授業の理解度	6.6% 8.8%	15% 25%	— ()																																																																						
②外部連携等	125人	211人	— ()																																																																						
②学力向上補習等	33人	40人	— ()																																																																						
③第一志望	53人	70人	— ()																																																																						
1日当たり欠席	12.6人	9人	— ()																																																																						
2,3年部活加入率	78%	80%	— ()																																																																						
学習アプリ取組	100p	150p	— ()																																																																						
自己肯定感	10.4% 7.1%	20% 20%	— ()																																																																						
業者テスト	D2+/D2+	D1-/D1-	— ()																																																																						

<4 特徴的な取組>

I 総合的な学習「熱海ラボ」等を通じたキャリア教育（生き方、在り方）の推進
 （地域連携を通じて育む自己肯定感と自己有用感）



(注) 数多くの取組事例の中の数例を下記に示しています。

①「熱海ラボ」



・総合的な学習の時間「熱海ラボ」熱海を活性化するための方策を熱海ガスの方々と協議する様子

②「起業家育成プロジェクト」



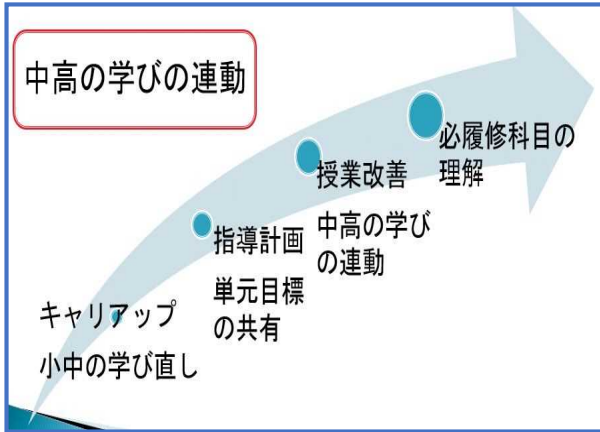
・起業家育成プロジェクト 企業経営者と地域産業の振興策を協議する様子

③「高校生ホテル」事前実習



・11/13, 14に実施される「高校生ホテル」のための事前実習の様子

（文部科学省事業での取組）



熱海高校（基礎学力向上のための授業改善）事例集
 <事例1> 文部科学省事業での取組では「中高校の学びの連動」に重点を置き、高校の学習内容の理解が深まるよう、平成30年度は「指導計画」を作成しました。
 <事例2> コアスクール予算で整備した機器を利用し、ICTを活用した授業に積極的に取り組んでいます。
 <事例3> 基礎学力向上に取り組む県外の先進校を訪問し、本校の教育活動に援用します。
 <事例4> 学習アプリ「ラインズドリル」を活用することで自発的に学習に取り組む姿勢を育みます。
 <事例5> チューター制を取り入れ学習・進路支援に取り組んでいます。
 <事例6> 大学教員を講師として招聘し、教員に対し研修を年4回実施します。

（取組事例1）「指導計画(Teaching Compass)」の作成



基礎学力向上のために国数英で単元ごとに授業計画をまとめた「指導計画(Teaching Compass)」を作成し、中高校の学びの連動を意識した授業改善を行っています。

（取組事例2）ICT機器を活用した授業



（生徒の授業理解も深まっています。）

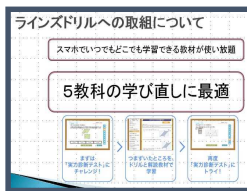
（取組事例3）県外先進校訪問

- （滋賀県立玉川高校）
- （岐阜県立海津明誠高校）
- （石川県立松任高校）
- （奈良県立榛生昇陽高校）



（報告会を職員研修として実施）

（取組事例4）学習アプリの活用



講習会の様子

自学自習の学習アプリに取り組むことにより、基礎学力の向上を目指しています。

（取組事例5）チューター制を取り入れた学習・進路支援

2年生全員を対象に、教員一人が4人～5人の生徒を担当し、各教員の指導計画の元、毎週月曜日の30分間を活用し、学習・進路支援に取り組んでいます。



<5 成果と今後の方向性>

本校では、「生き方・在り方」を模索する「キャリア教育」と「基礎学力向上のための授業改善」の二つの大きな柱によりコアスクール事業を進めています。「キャリア教育」の分野では、「熱海ラボ」、「高校生ホテル」に代表される地域連携により、「地域との協働による活動を学校の活動として明確化」し、「地域における活動を通じた探究的な学びの実現」を図っており、大きな成果を挙げています。

「基礎学力向上のための授業改善」では「中高校の学びの連動」をキーワードに主に国語、数学、英語の教科を中心に他教科においても授業改善に取り組んでいます。「学び直し（キャリアアップ※1）」を通じて義務教育段階の内容が分かるようになったという生徒も数多く見られることから一定の成果を挙げていると思われます。

さらに他県の先進校視察、大学教員による職員研修、ICT機器の活用等、生徒の自己肯定感・有用感の向上（ポジティブコミュニケーションの活用※2）並びに基礎学力向上に資する活動に積極的に取り組んでいます。今後も、「キャリア教育」と「基礎学力向上のための授業改善」を両輪とし、さらに自己肯定感・有用感を高めるとともに、家庭学習時間の確保等にも一層取り組んでいきます。

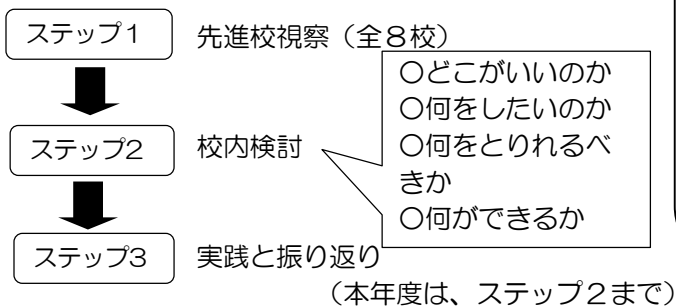
※1 本校独自の学校設定教科 義務教育段階の学び直しの教材（国・数・英・一般教養）を週2単位実施している。

※2 生徒の良い所を積極的に見つけ、教員が生徒に対し積極的に声掛けをすることにより自己肯定感を高めることを目的とした取組

<p><1 テーマ> 総合学科の強みを活かしながら、探究学習とキャリア教育で生徒のやる気を引き出す</p> <p><2 取組方法> 1) 生徒の学力向上 <ul style="list-style-type: none"> ・系列別研修（希望者）の開催 ・高度な資格取得の奨励 ・外部から講師を招聘し、授業実践 (2) 教員の指導力向上 <ul style="list-style-type: none"> ・特色ある授業の取り組みを行っている学校へ視察訪問 ・外部機関への授業研修参加 ・外部から講師を招聘し、授業実践 (3) 高大接続改革 <ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオの手法研究と開発 (4) 成果の検証 <ul style="list-style-type: none"> ・公開授業や成果発表会を通じた外部評価 </p>	<p><3 成果指標と実績></p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>成果指標</th> <th>初期値</th> <th>目標値</th> <th>実績（評価）</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①授業への取組 2年</td> <td>27.4%</td> <td>35.0%</td> <td>— ()</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>41.5%</td> <td>46.0%</td> <td>— ()</td> </tr> <tr> <td>①平日学習時間 2年</td> <td>0.30 h</td> <td>0.45 h</td> <td>— ()</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>0.71 h</td> <td>0.75 h</td> <td>— ()</td> </tr> <tr> <td>①休日学習時間 2年</td> <td>0.58 h</td> <td>0.70 h</td> <td>— ()</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>1.02 h</td> <td>1.10 h</td> <td>— ()</td> </tr> <tr> <td>③授業で力が 2年</td> <td>8.1%</td> <td>12.0%</td> <td>— ()</td> </tr> <tr> <td>ついた実感 1年</td> <td>21.0%</td> <td>24.0%</td> <td>— ()</td> </tr> <tr> <td>①授業の理解度 2年</td> <td>9.1%</td> <td>16.0%</td> <td>— ()</td> </tr> <tr> <td>1年</td> <td>22.5%</td> <td>26.5%</td> <td>— ()</td> </tr> <tr> <td>②外部との連携による探究活動等への参加生徒数</td> <td>97人</td> <td>95人</td> <td>— ()</td> </tr> <tr> <td>②学力向上を目的とした補習等への参加生徒数</td> <td>40人</td> <td>50人</td> <td>— ()</td> </tr> <tr> <td>③第一志望の進路を実現した生徒数</td> <td>164人 90.6%</td> <td>162人 90.0%</td> <td>— ()</td> </tr> <tr> <td>②上位の資格取得にチャレンジする生徒数</td> <td>44人</td> <td>54人</td> <td>— ()</td> </tr> <tr> <td>③「主体的・対話的で深い学び」のある授業に取り組んでいる教員数</td> <td>28/43人 (65%)</td> <td>31/43</td> <td>— ()</td> </tr> <tr> <td>③研修の効果を実感する教員の数</td> <td>25/43人 (58%)</td> <td>28/43</td> <td>— ()</td> </tr> </tbody> </table>	成果指標	初期値	目標値	実績（評価）	①授業への取組 2年	27.4%	35.0%	— ()	1年	41.5%	46.0%	— ()	①平日学習時間 2年	0.30 h	0.45 h	— ()	1年	0.71 h	0.75 h	— ()	①休日学習時間 2年	0.58 h	0.70 h	— ()	1年	1.02 h	1.10 h	— ()	③授業で力が 2年	8.1%	12.0%	— ()	ついた実感 1年	21.0%	24.0%	— ()	①授業の理解度 2年	9.1%	16.0%	— ()	1年	22.5%	26.5%	— ()	②外部との連携による探究活動等への参加生徒数	97人	95人	— ()	②学力向上を目的とした補習等への参加生徒数	40人	50人	— ()	③第一志望の進路を実現した生徒数	164人 90.6%	162人 90.0%	— ()	②上位の資格取得にチャレンジする生徒数	44人	54人	— ()	③「主体的・対話的で深い学び」のある授業に取り組んでいる教員数	28/43人 (65%)	31/43	— ()	③研修の効果を実感する教員の数	25/43人 (58%)	28/43	— ()
成果指標	初期値	目標値	実績（評価）																																																																		
①授業への取組 2年	27.4%	35.0%	— ()																																																																		
1年	41.5%	46.0%	— ()																																																																		
①平日学習時間 2年	0.30 h	0.45 h	— ()																																																																		
1年	0.71 h	0.75 h	— ()																																																																		
①休日学習時間 2年	0.58 h	0.70 h	— ()																																																																		
1年	1.02 h	1.10 h	— ()																																																																		
③授業で力が 2年	8.1%	12.0%	— ()																																																																		
ついた実感 1年	21.0%	24.0%	— ()																																																																		
①授業の理解度 2年	9.1%	16.0%	— ()																																																																		
1年	22.5%	26.5%	— ()																																																																		
②外部との連携による探究活動等への参加生徒数	97人	95人	— ()																																																																		
②学力向上を目的とした補習等への参加生徒数	40人	50人	— ()																																																																		
③第一志望の進路を実現した生徒数	164人 90.6%	162人 90.0%	— ()																																																																		
②上位の資格取得にチャレンジする生徒数	44人	54人	— ()																																																																		
③「主体的・対話的で深い学び」のある授業に取り組んでいる教員数	28/43人 (65%)	31/43	— ()																																																																		
③研修の効果を実感する教員の数	25/43人 (58%)	28/43	— ()																																																																		

<4 特徴的な取組1>

★キャリア教育の見直し・授業改善★



<4 特徴的な取組2>

★トークフォークダンス（キャリア教育）★

- 1 実施日 7月6日（金）「産業社会と人間」の授業
- 2 目的 世代の違う人達との会話を通じて、多様な考え方に触れ、自己表現力や会話を身に付ける機会とする。
- 3 対象 1年生と近隣の住民
- 4 内容 フォークダンスのように、1、2分で話す相手を次々と変えて、様々なテーマで語り合う。



当日の様子

当日は、生徒200名と
地域住民100名が参加

生徒の感想：「人の考え方というのは、やはり違うんだなと思った。『大人と子供、どちらが楽しいか』という質問にほとんどの人は子供と答えていた。でも、ある大人が、『大人の方が断然楽しい。』と言っていたので、少し不思議。どちらが楽しいか気になった。」

地域の方の感想：「高校生の考えを学べた。色々なこと考え、悩んだりしていることが新鮮に感じた。もっと地元の大人として、高校生と話していけるこういう場があればいいなと思った。裾野高校のこれからは楽しみだと感じた。」

募集中ラシ

トーク・フォークダンスで語ろう

申込用紙 FAX: 055-992-1016 締切6月28日(木)

お名前 性別 男性・女性 女性

下記のうち、該当されるところに○をお付けください

地域住民・生徒保護者・卒業生・その他 ()

連絡先 (電話番号またはメールアドレス)

※ご記入いただいた個人情報は、緊急の連絡がある場合にのみ使用します

会場

【静岡県立裾野高等学校】
〒410-1118
裾野市 裾野 300-1
TEL: 055-992-1125
駐車場に限りがあります。
可能な限り徒歩や自転車、
公共交通機関での来場にご協力ください。

★授業のユニバーサルデザイン化★

本校では、アクティブラーニング型の授業とともにUD教育に力を入れている。次年度は、この事業を活用して大学から講師を招聘し、UD教育のブラッシュアップを図る。
～裾野高校におけるユニバーサルデザイン化具体例～

- (1) 情報伝達は、口頭だけでなく、板書、プリント等を使ってできるだけ可視化する。
- (2) 教室の掲示物を減らし、集中力を高める。
- (3) 先の見通しが立てやすい工夫をする。
 - ア 「本時の目標」の提示 イ 時間を区切った授業
- (4) 課題提出が苦手な生徒には、途中で進捗状況の確認、数回に分けての提出をさせる。



UDに取り組む授業

<5 成果と今後の方向性>

1年生については、成果目標の初期値を取った時期が、学校生活のモチベーションをあげることを目的とする4月の「初期指導」直後であったため、かなり高めの数字となってしまった。実態は、もう少し低い数字であることが予想されるが、年度末の実績で対策をまた考えたい。

今年度のコアスクール事業は、種まきの段階であり、その実が結ぶのは、来年以降であろうが、今年度についても、成果目標の達成を目指して、今、行っている授業やキャリア教育等を職員一丸となって取り組む。

視察に行った多くの教員が、先進校の取り組みに多くの刺激を受け、本校でも何かできないかとモチベーションを上げている。そうした教員を中心に、事業に取り組む職員の意識は高まっており、今後に期待が持てる。

<1 テーマ>	<3 成果指標と実績>			
「読解力の育成」を主とした基礎学力の定着	成果指標	初期値	目標値	実績（評価）
	①授業への取組 2年	25%	30%	()
	1年	25%	30%	()
	①平日学習時間 2年	0.8時間	1時間	()
	1年	0.8時間	1時間	()
	①休日学習時間 2年	0.9時間	1.3時間	()
	1年	1時間	1.3時間	()
	③授業で力が	0.0%	10.0%	()
	ついた実感 2年	7.0%	10.0%	()
	1年	7.0%	10.0%	()
	① 授業の理解度	6%	10%	()
	② 外部との連携に	4人	10人	()
	よる探究活動			()
	③ 補習等への参加	706人	700人	()
	生徒数			()
	④ 第一志望の進路	141人	130人	()
	実現する生徒	79.7%	80.7%	()
	予習復習時間	37.04分	40分	()
	新聞講読する生徒数	38人	70人	()
	文章の理解度向上	66.4%	70.0%	()
				()

<4 特徴的な取組>



①各学年のSHRでの取組
1年生は分野別の図書を使った読書活動
2年生は日本語検定にチャレンジ 等



②読書活動の充実（ブックフェアの開催）
本年度新たな取組として開催し、多くの生徒
や教職員が多彩な分野の図書に触れた



③新聞を利用した活動
朝のSHRの時間を利用し、新聞を要約したり
感想を書いたりする活動を実施



④進路実現のための小論文等の指導
進路実現につながる学習として、学年単位で
の小論文指導や志望理由書指導の実施



⑤AO・推薦入試等に対応する表現力の指導
語彙力・読解力の育成から表現力の育成へ
面接やプレゼンテーションなどの指導



⑥卒業生等大学生による学習支援
土曜講座や冬期講習などの機会に、大学生
(卒業生等)が学習支援として生徒に関わる



⑦教員の校内研修テーマとして研究
「家庭学習を充実させるための課題とは」
などをテーマとして校内研修で話し合う



⑧指導力向上のための研修（講演会等）
校内研修の一部として、外部講師の講演会を
実施し、教員の指導力向上を図る

<5 成果と今後の方向性>

<成果>

「教員の指導力向上」については、本校に根付いた研修文化が生かされ、ここまでは計画通りに進んでいる。今後は、県の説明会を受けて、新学習指導要領の改訂の趣旨や内容についての理解を深めていきたい。

「各学年での取組」は、活動の開始時期が遅く、現段階では成果をはかることはできない。

「新聞講読や読書活動」も今後の活動によって数値が上がることを期待するところである。

ある一つの取組だけで読解力の育成が図られることはないと考えるので、今後様々な活動や取組によって語彙力や読解力が向上していくことを期待している。

<今後の方向性>

活動する場面も様々（朝のSHR、授業、読書週間、進路指導、講演会等）であり、使用する教材教具（テキスト、新聞、DVD等）も様々である。しかし、常に教師側と生徒側の両方が「語彙力・読解力の向上」を意識して取り組みを継続すれば、成果は現れてくると考える。

学校経営計画の主となるねらいである「読解力の育成」のための活動が、今後の生徒の進路実現に絶対的に必要であることを教師と生徒の双方が理解し、あらゆる場面で横断的に、そして意識的に取り組まれていくようにしていきたい。



コアスクール（学力進展）県立静岡西高等学校

テーマ「多様な進路に対応する体制づくり」

～ 生徒の学力と教員の授業力向上 ～



特徴的な取組

静岡西高校では、生徒の多様な進路希望の実現のために、三つの柱を立ててコアスクール事業がスタートした。

本校生徒にジャストフィットした魅力ある授業デザインを研究する

第一の柱は、教員の授業改善である。「新学習指導要領対応授業力向上研修」、「ICT活用研修」等、県教委の研修プログラムが充実したものとなるよう全職員をあげて取り組んでいるところである。また、本校研修課独自の取組である、有志が参加する「ミニ研修」では、様々な教育課題について毎月学習会を開催している。

学習面における本校生徒の課題として、基礎学力の不足と学習意欲の低下という実態がある。また、学力向上とともに生徒のメタ認知の涵養も必要であると考えている。本校生徒にとって最適な授業を展開し、これらの課題を解決するための授業力向上の研修を設けることとした。学習科学と認知心理学等の知見をいかし、学習意欲を高めつつ授業改善を図ることが有効であると考え、東京大学大学院教育学研究科助教の植阪友理氏をアドヴァイザーとして招聘し、「魅力ある授業デザイン研修」を企画、実践がはじまっている。植阪助教は、生徒の「勉強が分からない」「勉強はしているのに結果が出ない」「勉強のやる気が出ない」などの学習上の悩みを「認知カウンセリング」の手法でクライアントに指導・助言をする臨床研究を行っている。また、「教えて考えさせる授業」を全国各地の小学校、中学校、高校の教員と協働して実践研究を行っている。平成30年10月12日に本校で行われた研修会では、様々な実践的な助言をいただいた。例えば、生徒が「(授業内容が)分かった」と言うのなら、それを生徒自身に説明させることが重要であること、説明させることで生徒自身の理解の足りなかったことが明確になり、より深い理解につながること、生徒自身が説明したことは、学習の定着や記憶の保持に有効であることなど、本校教員の授業力向上に役立つ認知心理学の知見を指導いただいた。今後は、授業を実際にデザインし実践、フィードバックの研究を行うなど、次年度以降も共同研究を継続して推進していく。

校内の学習環境をハード面、ソフト面で整備する

第二の柱として、校内の学習環境の整備を行っている。本校では以前から多くの教員がICT機器を日常的に活用して授業を行っているが、「主体的・対話的で深い学び」の更なる充実のためICT機器の台数を増やしたり、最新モデルを導入したりする。また、本館各階廊下に机、椅子、ホワイトボード等を用意し、質問コーナーを設置する。気軽にいつでも教師に質問できる環境を整える。

定期テスト前には、一年生は全員で放課後一時間の「集中学習会」に取り組みさせている。学校で学習するきっかけを与え、家庭学習への弾みとなることを期待している。二、三年生の生徒も部活動単位で放課後学校に残って学習している。生徒同士で教えあったり、教師に質問にしたりする姿が校舎内のあちらこちらの教室で見受けられるようになった。今冬から「静西オフィスアワー」（教員が生徒の質問や学習相談を受けられるように教室や研究室にいる時間）を設定し、これまで以上にテスト前の学習に取り組みやすい雰囲気をつくっている。「学習動機の2要因モデル」（市川、1995）のうち、「関係志向」（生徒や教師など他者につられて学習する）によって学習意欲を高めていく意図がある。

家庭学習を習慣化する工夫

第三の柱は、家庭学習を充実したものに工夫する工夫である。「静西試験Navi」として課題の提示を工夫したり、スケジュールを意識したりするような呼びかけをしている。また、授業や補習ではフォローしきれなかった問題解説を動画で撮影し、動画サイトで閲覧できるようにするなどの取組も始めている。

学習支援の今後

教員の授業改善によって本校生徒の学力向上と学習意欲の高揚につなげるとともに、生徒一人ひとりを大切にしたい個別の学習支援を一層充実させていく。

取組方法

生徒の学力向上

- ・ 自学自習の支援
- ・ 学習環境の整備
- ・ テストへの取組改革
- ・ インターネット、Classi®を用いた課題解説動画の配信

教員の指導力向上

- ・ 学習科学、認知心理学の専門家を招聘
- ・ 先進取組校への県外視察
- ・ ミニ研修
- ・ ICT機器の利活用研修

広報活動の充実

- ・ N navi！（静岡西高校魅力発見マガジン）発行
- ・ 学校ホームページの改善
- ・ 中学校への訪問（情報・意見交換）

「教えて考えさせる授業」とは

認知心理学をもとに、東京大学大学院教育学研究科の市川伸一教授らが提唱している授業法。

認知心理学とは

人間が、物事を理解したり記憶したりする過程を、一種の情報処理としてとらえ、その特徴やしくみを研究する学問のこと。

教える

教師が説明を工夫し対話的に教える

考えさせる

単なる暗記ではなく、深い理解へ

理解確認

生徒同士で説明し理解度を確認する

理解深化

発展的な課題に取り組む

自己評価

授業で分かったことを振り返る

成果指標と実績

成果指標	初期値	目標値	実績(評価)
①授業への取組2年・1年	15.8%・18.3%	20%・20%	- (-)
①平日学習時間2年・1年	0.5h・0.8h	1.0h・1.0h	- (-)
①休日学習時間2年・1年	0.8h・1.1h	1.5h・1.5h	- (-)
③授業で力がついた実感2年・1年	5.9%・4.3%	10%・10%	- (-)
①授業の理解度2年・1年	8.4%・2.4%	10%・10%	- (-)
②外部との連携による探究活動等への参加人数	50人	100人	- (-)
②学力向上を目的とした補習等への参加人数	240人	300人	- (-)
③第一志望の進路を実現した生徒数	120人	180人	- (-)
国公立大学合格者数	4人	8人	- (-)
G-MARCH+日東駒専合格者数	31人	30人	- (-)
公務員合格者数	11人	12人	- (-)
ICT機器を用いた授業実践割合	20%	25%	- (-)

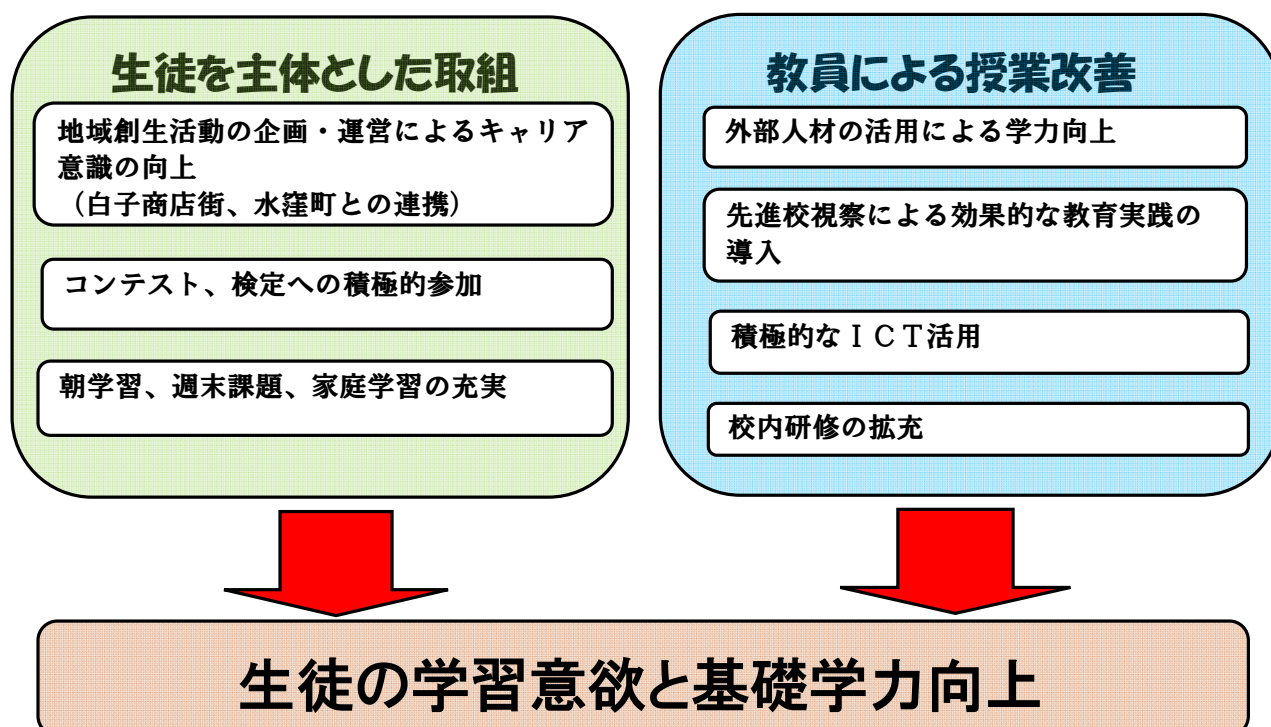
成果と今後の方向性

何よりも教員の意識改革につながっていることと、生徒たちの表情が少しずつ明るく変化していることが、現段階において最も大きな成果だと考える。今後も学習者中心の授業となるよう「教えて考えさせる授業」の手法を学んでいながら、授業力向上に努めていく。また、認知心理学の知見を援用し、生徒自身が学習方略を意識しながら学習できるようメタ認知を育成していき、望ましい学習観を身につけ、自己の進路希望を実現できるよう、引き続き支援していきたい。

この取組の方向性は正しいと判断し、今後も失敗を恐れずに思い切った取組を心がけ、継続してコアスクール事業を推進していきたい。

＜1 テーマ＞	＜3 成果指標と実績＞			
「実学の奨励」「地域・大学との連携」「授業改善取組」を総合的に活用した生徒の学習意欲と基礎学力向上	成果指標	初期値	目標値	実績（評価）
	①授業への取組 2年 1年	22% 23%	30% 30%	— () — ()
＜2 取組方法＞ (1) 地域創生活動の企画・運営によるキャリア意識の向上 ○地域商店街との連携・商店街へのアンテナショップ開設 ○水窪町町おこし事業への参画 (2) コンテスト、検定への積極的参加 (3) 朝学習、週末課題、家庭学習の充実 (4) 外部人材の活用による学力向上 ○大学・企業・地域からの講師招聘 ○地域施設との連携 (5) 先進校視察による効果的な教育実践の導入 ○グローバル-GAP先進校視察 ○基礎学力向上先進校視察 ○先進的総合学科高校視察 (6) 積極的なICT活用 (7) 校内研修の拡充	①平日学習時間 2年 1年	35分 35分	40分 40分	— () — ()
	①休日学習時間 2年 1年	123分 120分	130分 130分	— () — ()
	③授業で力がついた実感 2年 1年	23% 22%	25% 25%	— () — ()
	①授業の理解度 2年 1年	23% 22%	30%	— () — ()
	②外部と連携した探究的活動への参加生徒数	3年生 全員	3年生 全員	— ()
	②学力向上を目的とした補習への参加生徒数	45人	50人	— ()
	③第一志望の進路を実現した生徒数	90%	90% 以上	— ()
	週5日以上家庭学習する生徒の割合	5%	10%	— ()
	校内研修又は先進校視察に参加する教員の割合	84%	90%	— ()
	外部試験の成績下位者（GTZのD評価）の減少	35%	30%	— ()

＜4 特徴的な取組＞ 基本構想



< 4 特徴的な取組 > 取組の様子



水窪町との連携事業について関東地区代表として「農業クラブ全国大会」で発表する本校生徒



地元イノベーション企業を招いてのキャリア講演会



筑波大学飯田准教授を招いての学力向上に向けた校内研修会



白子商店街の空き店舗を活用した藤枝北高校アンテナショップ（昨年の様子。今年は12月に出店予定）

< 5 成果と今後の方向性 >

日々の地道な学習、課題解決的な実践、最新の知見の導入、コンテスト等へのチャレンジ、職員の授業力の向上等の取組を総合的に組み合わせることで、学習意欲及び学力を向上させようとするのが本校のコアスクール事業である。本年度については、ほぼ予定通りに計画が実行されてきた。

総合学科ならではの恵まれた資源は本校の強みであり、地域の抱える課題に関わり、一緒にそれを解決しようとする活動は主体的・対話的で深い学びそのものである。

一方、生徒の学力は授業の中で培われるものであることから、教員の授業力向上を疎かにすることはできない。本事業では、先進校視察、校内研修の充実、外部人材による最新知見の導入、ICTの活用など、教員の授業力向上の取組も並行して行ってきた。新たな授業実践に挑戦する教員も増えてきており、教員の意識改革も少しずつではあるが確実に進んできている。

課題は、様々な先進的取組が一部の意欲的な教員に留まっており、全校的な文化にまで昇華していないことである。また、これらの取組が実際に学習意欲や基礎学力向上につながっているかどうかの検証は今後集約されてくる生徒の学力向上の成果についてのデータ分析を待たねばならない。

今後は、まだ実施されていない一部の取組を確実にを行うとともに、成果の検証等の結果を来年度の計画にフィードバックしていきたい。

<1 テーマ>	<3 成果指標と実績>			
<p>学び続けるエンジニアの育成を目指して ～基礎学力の育成を基盤とした総合力を高める 取組み～</p>	成果指標	初期値	目標値	実績（評価）
<2 取組方法>	①授業への取組			
取組の柱	2年			
1 生徒の学力向上	1年			
2 教員の指導力向上	①平日学習時間			
3 高校大学接続改革	2年			
まず、生徒の学力向上として、全国工業高等学校長協会が認定するジュニアマイスター制度を活用した資格取得に力を入れ、工業高校での学びを深めるとともに、エンジニアとして必要な知識・技能・技術を身に付ける。また、地域連携で生徒は小中学校の出前授業等で講師をつとめ、工業の専門分野について教えることで、工業高校の魅力を発信するとともに自ら専門分野の知識を深める。	1年			
次に、教員の指導力向上として、高度技術の習得と先進技術の研究を行う。具体的には、校内研修への大学教授招聘や、企業が実施する研修会に参加し、最新技術に関する講習を受ける。また、ICT教育推進のため、授業におけるICT活用を促進するために教室環境の整備に力点を置く。	①休日学習時間			
そして、高校大学接続改革の研究として、大学等を訪問し、大学入試における総合型選抜・学校推薦選抜について情報収集し、生徒の進路実現に向け指導体制を整える。	2年			
	1年			
	③授業で力が			
	2年			
	ついた実感			
	1年			
	①授業の理解度			
	2年			
	1年			
	②外部との連携による探究活動等への参加生徒数			
	90名			
	100名			
	()			
	②学力向上を目的とした補習等への参加生徒数			
	130名			
	140名			
	()			
	③第一志望の進路を実現した生徒数			
	180名			
	190名			
	()			
	③ジュニアマイスターゴールド・シルバーになった生徒の数			
	5名			
	7名			
	()			
	③競技大会で入賞した競技数			
	4競技			
	4競技			
	()			
	②就職希望者でインターンシップに参加した生徒の割合			
	2年			
	70%			
	80%			
	57.7% (C)			
	③基礎力診断テストの教科面平均レベル			
	2年・1年			
	2.8・3.1			
	2.9・3.2			
	3.4・3.4 (A)			

<4 特徴的な取組>

1 生徒の学力向上

工業の専門性を深化させ、エンジニアが実社会で必要とする資格取得を推進している。目標としてジュニアマイスター制度(全国工業高等学校長協会主催)を活用し、生徒の意欲を引き出している。そのため、自習室に資格関係の書籍棚を設け、資格取得の援助となるようにしている。また、希望者対象に講習会を開いている。



資格試験のための書籍棚

2 教員の指導力向上

(1) 授業力向上研修

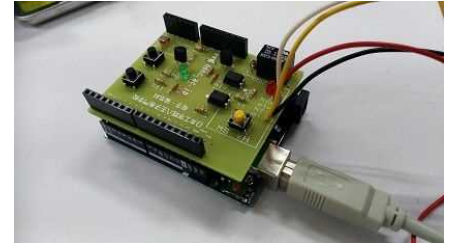
上越教育大学水落芳明教授を招き、『主体的・対話的で深い学びにおける教師の役割について～目標と学習と評価の一体化の観点から～』と題した校内研修を行った。Society5.0をイノベーションによって生み出していくために、学校教育に主体的・対話的で深い学びが求められている。どう教えるかという授業研究ではなく、生徒がどう学ぶかという学習研究について実践例を交えて研修し、生徒が新しい価値を創造できる存在となるよう指導法を研究する。



水落教授による授業力向上研修

(2) 高度技能の習得と先進技術の研究

企業や業界団体が実施した技術研修に工業科教員4名が参加し、のべ6講座を受講した。特に、平成31年度、本校に設置される新学科「情報電子科」では、AI・IoT時代に対応できる技術者の育成を目指すため、関連する研修を重点的に受講した。家電製品のIoT技術に活用できるArduinoマイコンの研修。画像認識でロボット制御を行うLabVIEW体験の研修はじめ、ネットワーク技術などの通信分野の研修も受講した。これらの研修をとおして先進技術を知るとともに、授業において高度な技術や技能につながる学びができる指導法について研究する。



Arduinoマイコンの研修で教員が製作した ESP-WROOM-02装置

(3) ICT教育の推進

各教室にプロジェクターが配置されたことから、ICT機器による効果的・効率的な授業展開を研究し活用を促進する。USBメモリやノートパソコンだけでなく、タブレットの活用を促進する物品を整えた。また、黒板への投影に加えマグネット式スクリーンを活用することで、見やすい環境を整備する。



タブレットとスクリーンを活用した建築科3年の授業

3 高校大学接続改革

総合型選抜・学校推薦型選抜を活用した進学指導の先進高校と国立大学を訪問した。今回の訪問では、進学指導、入試情報や大学が求める人材について情報を得た。本校は、総合型選抜・学校推薦型選抜を中心に進学をする。そのための情報収集をすることで、より生徒に適した進学先を模索し、効果的な指導ができるように努めていく。



長岡技術科学大学への訪問

<5 成果と今後の方向性>

授業力向上の校内研修や高度な技術を習得するための企業研修に参加することで、教育現場の実情と時代が求める教育の乖離を認識することが出来た。研修成果を活かそうと、教員が危機感をもって授業に取り組みICTの活用や主体的・対話的な授業づくりに奮闘する様子が見受けられるようになった。今後は、教員の自己満足にならないように、生徒にアンケート等を実施して、生徒の目線から見る授業や授業環境はどうかを把握しながら、今後の活動に役立てる。また、授業内容の充実だけではなく、将来生徒が実社会で新しい価値を創造できる資質を育成するために、引き続き基礎学力向上、資格取得にも力を入れていく。さらに、生徒の進路希望が実現するよう教員の進路指導能力を向上させる。



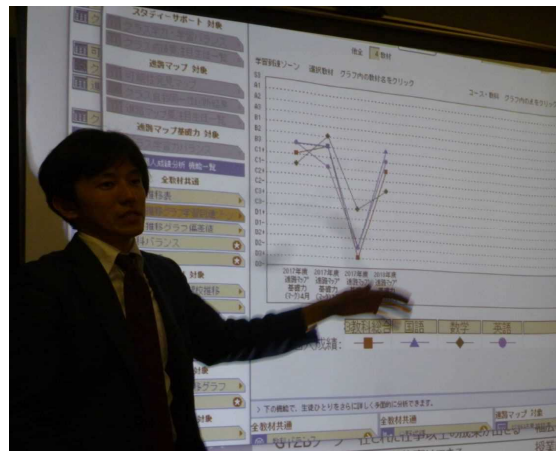
東京工業大学付属
科学技術高校への訪問

<p><1 テーマ> 主体的、探求的な学びの推進による学力進展 (学びの充実プラン)</p>	<p><3 成果指標と実績></p>			
<p><2 取組方法></p> <ul style="list-style-type: none"> 外部機関と連携した教材等を開発（作成）し、日常の授業、長期休暇等の課題（宿題）として活用する。 定期的に確認テスト（模試）を実施し、定着度等を確認する。 学び直しが必要な生徒に対し、中学校段階の学び直し（学習支援）を行い、意欲的に学びに向かう姿勢を確立する。 外部人材の活用（出前授業）、大学・企業等と連携した進路探求・職業理解等、多様な機会を提供する。 	<p>成果指標</p>	<p>初期値</p>	<p>目標値</p>	<p>実績(評価)</p>
	<p>①授業への取組 2年 1年</p>	<p>19.8% 22.2%</p>	<p>25.0% 30.0%</p>	<p>() ()</p>
	<p>①平日学習時間 2年 1年</p>	<p>0.34 0.64</p>	<p>1.00 1.00</p>	<p>() ()</p>
	<p>①休日学習時間 2年 1年</p>	<p>0.44 0.81</p>	<p>1.20 1.20</p>	<p>() ()</p>
	<p>③授業で力が ついた実感 2年 1年</p>	<p>4.0% 11.1%</p>	<p>10.0% 15.0%</p>	<p>() ()</p>
	<p>①授業の理解度 2年 1年</p>	<p>7.9% 9.1%</p>	<p>10.0% 10.0%</p>	<p>() ()</p>
	<p>②探求活動への参加生徒数</p>	<p>30</p>	<p>50</p>	<p>()</p>
	<p>②補講等への参加生徒数</p>	<p>30</p>	<p>40</p>	<p>()</p>
	<p>③第一志望の進路実現生徒数</p>	<p>50</p>	<p>60</p>	<p>()</p>
	<p>②資格にチャレンジした生徒数</p>	<p>496(全校)</p>	<p>600</p>	<p>()</p>
	<p>③成長を強く実感した生徒割合</p>	<p>11%(全校)</p>	<p>30%</p>	<p>()</p>
	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p>()</p>

<4 特徴的な取組>

○ ベネッセと本校職員との研究会の実施（4回実施）

- ① 生徒の主体的な学びを実現する指導方法の提案 ② 生徒の学力の把握(基礎力診断テストの分析)



③ Classi活用研修 1 (学習機能の理解と実践方法)

④ Classi活用研修 2 (生徒の実態に応じた教材作成)

